

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大田原市	川西地区 （黒羽向町・大豆田・余瀬地区）	令和3年3月25日	令和4年2月10日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	265.04 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	181.84 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	36.35 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	27.17 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	- ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	64 ha
（備考）	

2 対象地区の課題

黒羽向町地区では、奥沢地区において果樹類は盛んだが、稲作の今後の心配される。農地を借りる際、条件の悪い農地も抱き合わせて借りなければならない。昔、交換分合をした地区や、開田した地区は面積や形状が悪く、水利の維持管理が大変である。

余瀬地区では、耕作条件は良いが、若い人は果樹・施設園芸の傾向が強い。

大豆田地区では、基盤整備済の農地は条件が良いが、基盤整備をしていない農地は排水路がなく、道が狭い等、条件も悪く耕作放棄地も増加している。また、大規模農家の後継者が未確定である。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

黒羽向町地区では、奥沢地区の農地は4人前後の農業者後継者で賄っていきける。地権者が多いため、難しいところではあるが、担い手の受け入れのためにも個人負担の少ない土地改良を検討していく。また、他地区からの担い手の受け入れや、家族だけではなく、第三者への継承も検討していく。

余瀬地区では、多面的機能支払の活動を継続し、非農家の方にも協力も求めながら進めていく。世代交代による活動意識の低下が懸念されるが、若い人に活動の中で意識付けをしていく。

大豆田地区では、基盤整備済の農地は耕作条件が良いので、今後自分たちで賄えなくなったら他地区からの担い手の受け入れも検討していく。また、多面的機能支払の活動を継続していく。隣接する狭原地区（山野地区）に農地を持っている方が多く、共同で基盤整備を進めていきたい意向があるので、引き続き検討を重ねていく。地区内外でそれぞれ1名の担い手が今後期待されるので、中心に集積・集約化を進めていく。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

多面的機能支払の取組方針

余瀬地区では、耕作放棄地の発生防止、地域のコミュニティ形成及び景観の維持につなげていくためにも、当該活動を引き続き継続させていく。

基盤整備への取組方針

大豆田地区では、狭原（山野地区）と共同で基盤整備を取り組んでいきたい意向があり、農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るためにも、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備の検討を進めていく。

新規就農者の就農

主に余瀬地区で、果樹や園芸作物について就農希望する若い農業者がいるので、人・農地プラン等の地区の話し合いをきっかけにして、今後の就農・規模拡大が期待される。

担い手の受け入れに関する方針

土地改良済の農地を中心に、地区内の貸借を循環させ、賄えない場合は、地区外からの担い手への受け入れを検討していく。